

GATB 厚生労働省編一般職業適性検査

実施の流れ

実施から結果の解説、活用までの実際

授業やセミナー、就労支援の中で、GATBをどのように実施し、活用するか、具体的な流れを紹介します。

■全体の流れ

GATBは、個別でも、集団でも、実施することのできる検査です。

GATB実施後、判定（採点）の時間を要するため、授業や面談では「検査の実施」と「結果の解説と活用」を2回（2コマ）に分けて行います。

検査の実施

- 被検者（生徒、学生、社会人等）へ検査用紙を配付します。
- 検査の趣旨を説明し、実施上の注意点を説明します。 **約5分**
- 検査1から検査11までを順番に実施します。 **約42分**
- 検査用紙を回収します。 **約3分**

p.7へ

判定

- 判定サービスには「ベーシックコース」「プラスコース」の2種類があります。活用目的に合わせて、コースをお選びいただけます。
- 回収した検査用紙を、雇用問題研究会 採点部へお送りいただきます。
- 判定に要する期間は、採点部に到着してから3～4週間程度です。

p.8～9へ

- 回収した検査用紙を、実施者（指導者）が手引を参照しながら採点することも可能です。手引については **p.11** 下段参照。

結果の解説と活用

- 判定結果票と「結果の見方・生かし方」を用いて、自己理解を深めます。
- 「結果の見方・生かし方」のワークを行うことで、自己の能力と職業とを関連づけて考えます。

p.8～10へ

- 「H・m・L」判定の方法は、 **p.12～13へ**

さらに...

「職業調べ」をする

- ワークの結果を活用して「職業調べ」につなげることもできます。

p.11へ

個別面談

- 進路相談、就職相談などの場面で、GATBの結果を参考にして話し合うこともできます。学校では、三者面談での利用も可能です。

p.11へ

検査の実施

用紙の配付と検査実施の準備

- 各被検者に検査用紙を配付する。
- 次のように指示する。
「合図があるまで検査用紙を開いてはいけません。」
「配られた検査用紙と鉛筆が手元にあるかどうか、確認してください。」
「消しゴムは使わないので、片付けてください。」
「携帯電話の電源は切ってください。」



● 検査用紙



● 検査実施者用冊子



実施者が使用するもの

- ・ 検査実施者用冊子
- ・ ストップウォッチ
- ・ 黒板、またはホワイトボード
- ・ 予備の鉛筆

検査実施の趣旨説明

「これから職業適性検査を行います。これは皆さんが持っている職業に関係のあるいろいろな能力を調べ、どんな職業が適しているかを考えるためのものです。したがって、これは皆さんが、将来職業を選ぶときの手がかりを得るもので、学科試験ではありませんし、学校の成績とも関係ありません。私の言うとおりのやり方で、楽な気持ちで、しかも全力を尽くして検査に臨んでください。」



約5分

氏名欄等の記入

- 検査用紙表紙の氏名欄等を記入させる。

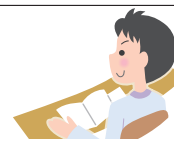
検査の説明

- 検査用紙表紙の「検査をはじめる前に」を読む。

被検者が使用するもの
・ 鉛筆（一人2～3本）
（ボールペン不可）

検査の実施

- 検査1から検査11までを順番に実施する。
その際、各検査の所定時間は正確に計測する。



約42分

検査用紙回収・部数確認

- 氏名欄等の記入を再度確認し、検査用紙を回収、部数を確認する。

約3分

判定のご依頼

- 実施済み検査用紙を、雇用問題研究会 採点部へ送付する。

結果の解説と活用

判定サービスには、次に示す2種類のコースがあります。
活用目的に合わせてお選びください。

自分の能力特徴を知るには

プラスコース

自分の中の得意な部分を知ることが可能。他者と比較することなく、自分の上位3位までの能力に注目。

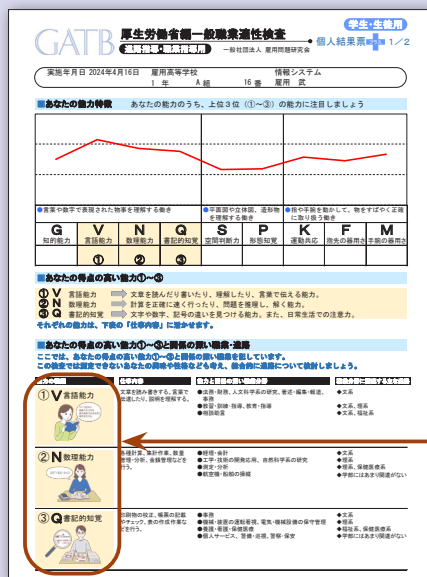
能力について客観的に知るには

ベーシックコース

適性能得点により、自分の結果が他者と比べてどの位置にあるか、職業が必要とする基準（所要適性能基準）を満たしているか判明。

1. 能力特徴（主に得意な能力）を理解する

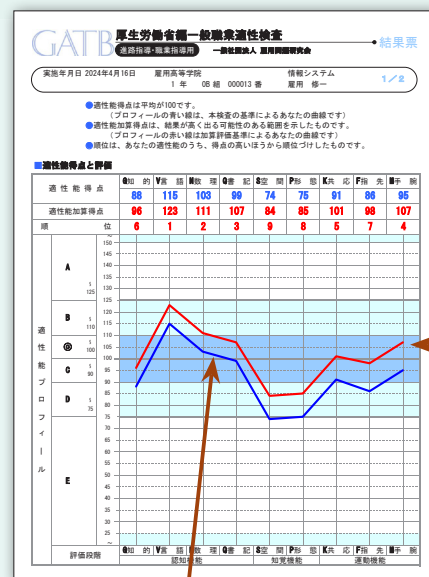
● 生徒用—— 個人結果票プラス 1/2枚目



能力特徴をグラフで表示。
得点は表示されない。

能力のイメージイラストが表示される。

● 生徒・学生・社会人用—— 結果票 1/2枚目

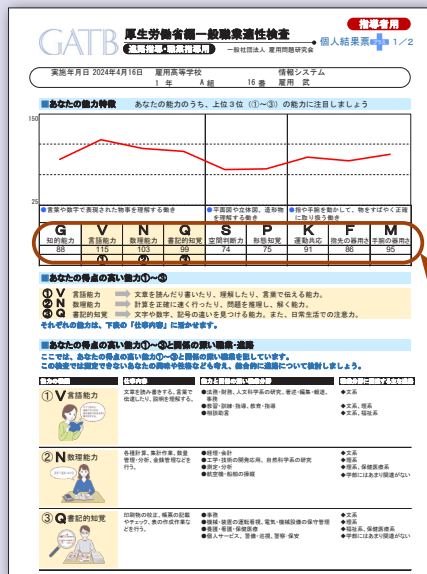


能力特徴をグラフで表示。
全国平均を100とした
適性能得点が表示される。

グラフの青い線は、「適性能得点」（今回の検査で測定された、9種の適性能の各得点）。

グラフの赤い線は、「適性能加算得点^{注1}」。

● 指導者用—— 個人結果表プラス 1/2枚目



指導者用には、得点も表示される。

注1：適性能加算得点

GATBの結果は、受検時の受検者のコンディション等に少なからず影響を受けるため、検査結果にはブレ（測定誤差）が生じると考えられます。能力がありながら発揮できなかったかもしれない状況を考慮し、適性能ごとに定められた8～12点の数値（加算点）を適性能得点に足した点数のことを、適性能加算得点といいます。

各適性能の加算点

「G・V・N・Q」8点

「S・P・K」10点

「F・M」12点

2. 自分の能力が生かせそうな職業を知る

● 生徒用—— 個人結果票プラス 1/2枚目

◆あなたの得意な高い能力①～③と興味の強い職業・進路

ここでは、あなたの得意な高い能力①～③と興味の強い職業を挙げています。
 この組み合わせがあなたに合う職業や進路の候補になるでしょう。自分に合う組み合わせについて検討しましょう。

得意な能力	得意な能力	得意な能力	興味のある職業・進路
① V 言語能力 	文章を短く小まとめる、整理する 伝達したい、説明を簡潔にする、	●法政・経済・人文科学の研究、看護・福祉・報道、 教育 ●英語・韓国・中国、教育・指導 ●情報教育	●文系 ●文系、理系 ●文系、福祉系
② N 数理能力 	命題的推論、論理的推論、論議 管理・分析、数量管理などを行う、	●経済・統計 ●工学・技術系の開発・応用、自然科学の研究 ●経営・経済・福祉の研究	●文系 ●理系 ●理系、経済系進路など ●学校に3年以上進学予定がない
③ K 書記的知覚 	目印物や校正・複製の正確さや マウスの動き、動作の正確さなどを行う	●事務 ●情報・技術系でパソコン、電算・機械系のシステム管理 ●経済・統計・福祉系 ●理系・人文・文系、理系、医学・歯学	●文系 ●理系 ●理系、保健師進路など ●学校に3年以上進学予定がない

自分の得点
の高い1～3
位の能力と
関係の深い
職業・進路
を表示。

「授業の中で生徒にGATBの結果票を返却したいけれど、生徒はお互いに結果を見せ合うため、得点が表示されていると返却しづらい。授業で返却できる結果票がほしい」という先生方からのご要望により、プラスコースが開発されました。

3. ワークを通して、能力と職業について検討する

● 生徒用/指導者用（共通）
—— 個人結果票プラス 2/2枚目

GATE		厚労省告示第一号 一般選考試験科目	個人結果表	2	
※ 本表は、平成27年度「一般選考」において、一般選考として実施された試験科目の「試験科目に関する追加説明」を掲載しています。詳しくは、厚労省告示第一号「一般選考」の「試験科目に関する追加説明」を参照してください。					
科目	試験科目に関する追加説明	試験科目に関する追加説明	試験科目に関する追加説明	試験科目に関する追加説明	
基礎能力	① 国語能力試験 ② 漢字検定試験 ③ 英語能力試験 ④ 数学能力試験 ⑤ 情報処理能力試験 ⑥ 外国語能力試験 ⑦ 専門科目試験 ⑧ 面接試験 ⑨ 実地試験 ⑩ 論文試験 ⑪ 小論文試験 ⑫ 口頭試問試験 ⑬ 筆記試験 ⑭ 面接試験 ⑮ 実地試験 ⑯ 論文試験 ⑰ 小論文試験 ⑱ 口頭試問試験 ⑲ 筆記試験 ⑳ 面接試験 ㉑ 実地試験 ㉒ 論文試験 ㉓ 小論文試験 ㉔ 口頭試問試験 ㉕ 筆記試験 ㉖ 面接試験 ㉗ 実地試験 ㉘ 論文試験 ㉙ 小論文試験 ㉚ 口頭試問試験 ㉛ 筆記試験 ㉜ 面接試験 ㉝ 実地試験 ㉞ 論文試験 ㉟ 小論文試験 ㊱ 口頭試問試験 ㊲ 筆記試験 ㊳ 面接試験 ㊴ 実地試験 ㊵ 論文試験 ㊶ 小論文試験 ㊷ 口頭試問試験 ㊸ 筆記試験 ㊹ 面接試験 ㊺ 実地試験 ㊻ 論文試験 ㊼ 小論文試験 ㊽ 口頭試問試験 ㊾ 筆記試験 ㊿ 面接試験	① 国語能力試験 ② 漢字検定試験 ③ 英語能力試験 ④ 数学能力試験 ⑤ 情報処理能力試験 ⑥ 外国語能力試験 ⑦ 専門科目試験 ⑧ 面接試験 ⑨ 実地試験 ⑩ 論文試験 ⑪ 小論文試験 ⑫ 口頭試問試験 ⑬ 筆記試験 ⑭ 面接試験 ⑮ 実地試験 ⑯ 論文試験 ⑰ 小論文試験 ⑱ 口頭試問試験 ⑲ 筆記試験 ⑳ 面接試験 ㉑ 実地試験 ㉒ 論文試験 ㉓ 小論文試験 ㉔ 口頭試問試験 ㉕ 筆記試験 ㉖ 面接試験 ㉗ 実地試験 ㉘ 論文試験 ㉙ 小論文試験 ㉚ 口頭試問試験 ㉛ 筆記試験 ㉜ 面接試験 ㉝ 実地試験 ㉞ 論文試験 ㉟ 小論文試験 ㊱ 口頭試問試験 ㊲ 筆記試験 ㊳ 面接試験 ㊴ 実地試験 ㊵ 論文試験 ㊶ 小論文試験 ㊷ 口頭試問試験 ㊸ 筆記試験 ㊹ 面接試験 ㊺ 実地試験 ㊻ 論文試験 ㊼ 小論文試験 ㊽ 口頭試問試験 ㊾ 筆記試験 ㊿ 面接試験	① 国語能力試験 ② 漢字検定試験 ③ 英語能力試験 ④ 数学能力試験 ⑤ 情報処理能力試験 ⑥ 外国語能力試験 ⑦ 専門科目試験 ⑧ 面接試験 ⑨ 実地試験 ⑩ 論文試験 ⑪ 小論文試験 ⑫ 口頭試問試験 ⑬ 筆記試験 ⑭ 面接試験 ⑮ 実地試験 ⑯ 論文試験 ⑰ 小論文試験 ⑱ 口頭試問試験 ⑲ 筆記試験 ⑳ 面接試験 ㉑ 実地試験 ㉒ 論文試験 ㉓ 小論文試験 ㉔ 口頭試問試験 ㉕ 筆記試験 ㉖ 面接試験 ㉗ 実地試験 ㉘ 論文試験 ㉙ 小論文試験 ㉚ 口頭試問試験 ㉛ 筆記試験 ㉜ 面接試験 ㉝ 実地試験 ㉞ 論文試験 ㉟ 小論文試験 ㊱ 口頭試問試験 ㊲ 筆記試験 ㊳ 面接試験 ㊴ 実地試験 ㊵ 論文試験 ㊶ 小論文試験 ㊷ 口頭試問試験 ㊸ 筆記試験 ㊹ 面接試験 ㊺ 実地試験 ㊻ 論文試験 ㊼ 小論文試験 ㊽ 口頭試問試験 ㊾ 筆記試験 ㊿ 面接試験	① 国語能力試験 ② 漢字検定試験 ③ 英語能力試験 ④ 数学能力試験 ⑤ 情報処理能力試験 ⑥ 外国語能力試験 ⑦ 専門科目試験 ⑧ 面接試験 ⑨ 実地試験 ⑩ 論文試験 ⑪ 小論文試験 ⑫ 口頭試問試験 ⑬ 筆記試験 ⑭ 面接試験 ⑮ 実地試験 ⑯ 論文試験 ⑰ 小論文試験 ⑱ 口頭試問試験 ⑲ 筆記試験 ⑳ 面接試験 ㉑ 実地試験 ㉒ 論文試験 ㉓ 小論文試験 ㉔ 口頭試問試験 ㉕ 筆記試験 ㉖ 面接試験 ㉗ 実地試験 ㉘ 論文試験 ㉙ 小論文試験 ㉚ 口頭試問試験 ㉛ 筆記試験 ㉜ 面接試験 ㉝ 実地試験 ㉞ 論文試験 ㉟ 小論文試験 ㊱ 口頭試問試験 ㊲ 筆記試験 ㊳ 面接試験 ㊴ 実地試験 ㊵ 論文試験 ㊶ 小論文試験 ㊷ 口頭試問試験 ㊸ 筆記試験 ㊹ 面接試験 ㊺ 実地試験 ㊻ 論文試験 ㊼ 小論文試験 ㊽ 口頭試問試験 ㊾ 筆記試験 ㊿ 面接試験	① 国語能力試験 ② 漢字検定試験 ③ 英語能力試験 ④ 数学能力試験 ⑤ 情報処理能力試験 ⑥ 外国語能力試験 ⑦ 専門科目試験 ⑧ 面接試験 ⑨ 実地試験 ⑩ 論文試験 ⑪ 小論文試験 ⑫ 口頭試問試験 ⑬ 筆記試験 ⑭ 面接試験 ⑮ 実地試験 ⑯ 論文試験 ⑰ 小論文試験 ⑱ 口頭試問試験 ⑲ 筆記試験 ⑳ 面接試験 ㉑ 実地試験 ㉒ 論文試験 ㉓ 小論文試験 ㉔ 口頭試問試験 ㉕ 筆記試験 ㉖ 面接試験 ㉗ 実地試験 ㉘ 論文試験 ㉙ 小論文試験 ㉚ 口頭試問試験 ㉛ 筆記試験 ㉜ 面接試験 ㉝ 実地試験 ㉞ 論文試験 ㉟ 小論文試験 ㊱ 口頭試問試験 ㊲ 筆記試験 ㊳ 面接試験 ㊴ 実地試験 ㊵ 論文試験 ㊶ 小論文試験 ㊷ 口頭試問試験 ㊸ 筆記試験 ㊹ 面接試験 ㊺ 実地試験 ㊻ 論文試験 ㊼ 小論文試験 ㊽ 口頭試問試験 ㊾ 筆記試験 ㊿ 面接試験

2015年08月01日現在

「一般選考」に関するお問い合わせ先

具体的な職業例が記載されており、ワークに活用できる。

● 生徒・学生・社会人用——結果票 2/2枚目

[illegible]

所要適性能基準 (GATBで定めている40の各適性職業群に必要とされる適性能の種類と水準) と、GATBの結果 (適性能得点) を照合し、適性が高いのか、努力を必要とするのかを3段階で表示 (H・m・L)。

H——能力面からみて、適性職業群に含まれる仕事に就いた時にうまくやっていける可能性が高いことを示している。

m——能力面からみて、適性職業群に含まれる仕事に就いた時に努力しだいでうまくやっていける可能性が高いことを示している。

L——能力面からみて、適性職業群に含まれる仕事をうまくやっていくためには、かなりの努力が必要であることを示している。

※ 「H・m・L」の判定方法および「L」判定の詳細な
見方・考え方については、p.12～13を参照。

「結果の見方・生かし方」には、上記よりも多くの職業例が記載されているので、そちらを実施してもよい。

ワークを通して自分の能力特徴の理解を深め、得意な能力を生かせそうな具体的な職業を検討する。

ワークシート「結果の見方・生かし方」を使用

p.10^

「職業調べ」をする

ワークの結果、関心のある職業について調べ、進路や職業を選ぶときのヒントとして活用できます。元々希望している職業がある場合は、それも併せて調べます。

希望している職業があり、GATBの得点が所要適性能基準に達していなかったとしても、それだけであきらめる必要はありません。なりたい職業に、GATBで判明した得意な能力が生かせそうな職業をプラスし、選択肢を広げて職業について調べ、あらためて将来の進路について考えていくことが大切です。

- 調べる内容…仕事内容、必要な能力や資格、どうしたらなれるのか、やりがい、大変なことなど
- 調べる方法…Webサイト、社会人の話、本、テレビ番組など
 - ※ 本誌連載記事「しごとインタビュー」も参考にいただけます。

進路選択にあたり、能力は1つの大きな手がかりになりますが、最終的には本人自身の興味・性格・価値観など、総合的に検討することが重要です。

個別面談

進路相談などの個別面談で、GATBの結果を参考にして話し合うこともできます。

本人がどのように結果を理解しているかを把握し、曲解・誤解をしないよう注意しましょう。希望していることや興味・性格・価値観等を幅広く考え併せながら、自ら進路選択していけるようサポートします。



Q GATB実施のための、手引書はありますか？

はい。GATBを適切にご実施いただくために、必ず「手引」をご一読ください。

内容

検査の概要／検査の実施方法／結果の整理法／結果の意味と解釈／検査の活用／本検査の沿革と改訂の経緯

別表

I 換算表

中学生用と、高校生以上用の2種類の換算表を掲載

II 職業（探索）領域・適性職業群

職業（探索）領域別適性職業群一覧表、13の領域の説明、40の適性職業群に該当する職業例などが記載されています。

附属

検査実施者用検査用紙

検査の実施手順、注意事項および練習問題の正答を赤字で印刷。実施者の方が検査実施の際に用います。

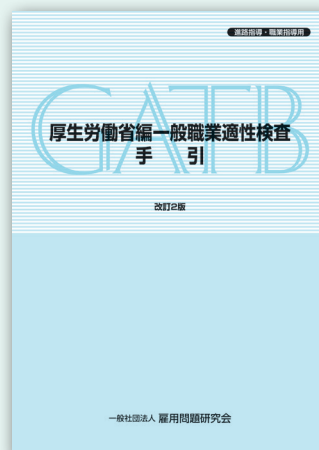
採点盤

「手引」の正答表または「採点盤」を用いて、学校（職業訓練機関・就労支援機関）等で独自に採点することも可能です。

厚生労働省編一般職業適性検査 手引
進路指導・職業指導用 改訂2版

編著者 ● 厚生労働省職業安定局

B5判／153ページ
定価 1,210円（税込）



H・m・L 判定の方法

GATBでは、40の職業群について所要適性能基準（その職業を遂行するうえで求められる適性能の種類と水準）が設定されています。その基準と、被検者の得点を照合し、「H・m・L」判定を行います。

※ 「H・m・L」については、**p. 9**（ベーシックコース内）を参照。

照合の具体的なやり方

被検者の適性能得点、適性能加算得点（p.8の注1 参照）と、各職業群の所要適性能基準を照合します。照合結果は、各適性能が基準以上であれば「○」、基準未満であれば「×」とします。

例）雇用修一さんは、「販売」、「理容・美容」、「教育・訓練・指導」の3つの仕事を希望している。

■ 雇用修一さんのGATBの結果より

適性能	G	V	N	Q	S	P	K	F	M
雇用修一さんの 適性能得点	88	115	103	99	74	75	91	86	95
// 適性能加算得点	96	123	111	107	84	85	101	98	107

初めに、「適性職業群」から選択した「3つの仕事」の**所要適性能基準**と、雇用修一さんの**適性能得点**を照合

「販売」の仕事				「理容・美容」の仕事			「教育・訓練・指導」の仕事		
必要とされる適性能	G	N	Q	S	P	M	G	V	Q
所要適性能基準	75	75	75	75	75	75	100	100	100
雇用修一さんの 適性能得点	88	103	99	74	75	95	88	115	99
適性能得点 での照合結果	○	○	○	×	○	○	×	○	×

適性能得点がすべての基準を満たしている。

適性能得点に、基準未満の適性能がひとつでもある。

「H」判定

うまくやっていける可能性が高い。

次に、**適性能加算得点**で照合

必要とされる適性能	S	P	M
所要適性能基準	75	75	75
雇用修一さんの 適性能加算得点	84	85	107
適性能加算得点 での照合結果	○	○	○

適性能得点に加算点を加えれば、すべての基準を満たしている。

必要とされる適性能	G	V	Q
所要適性能基準	100	100	100
雇用修一さんの 適性能加算得点	96	123	107
適性能加算得点 での照合結果	×	○	○

適性能得点に加算点を加えても基準未満の適性能がひとつでもある。

「m」判定

努力しだいでうまくやっていける可能性が高い。

「L」判定

うまくやっていくためには、かなりの努力が必要。

なお、器具検査を実施していない場合は、適性能「F」「M」の基準をすべて満たしているとみなします。

応用編

「L」判定の詳細な見方・考え方

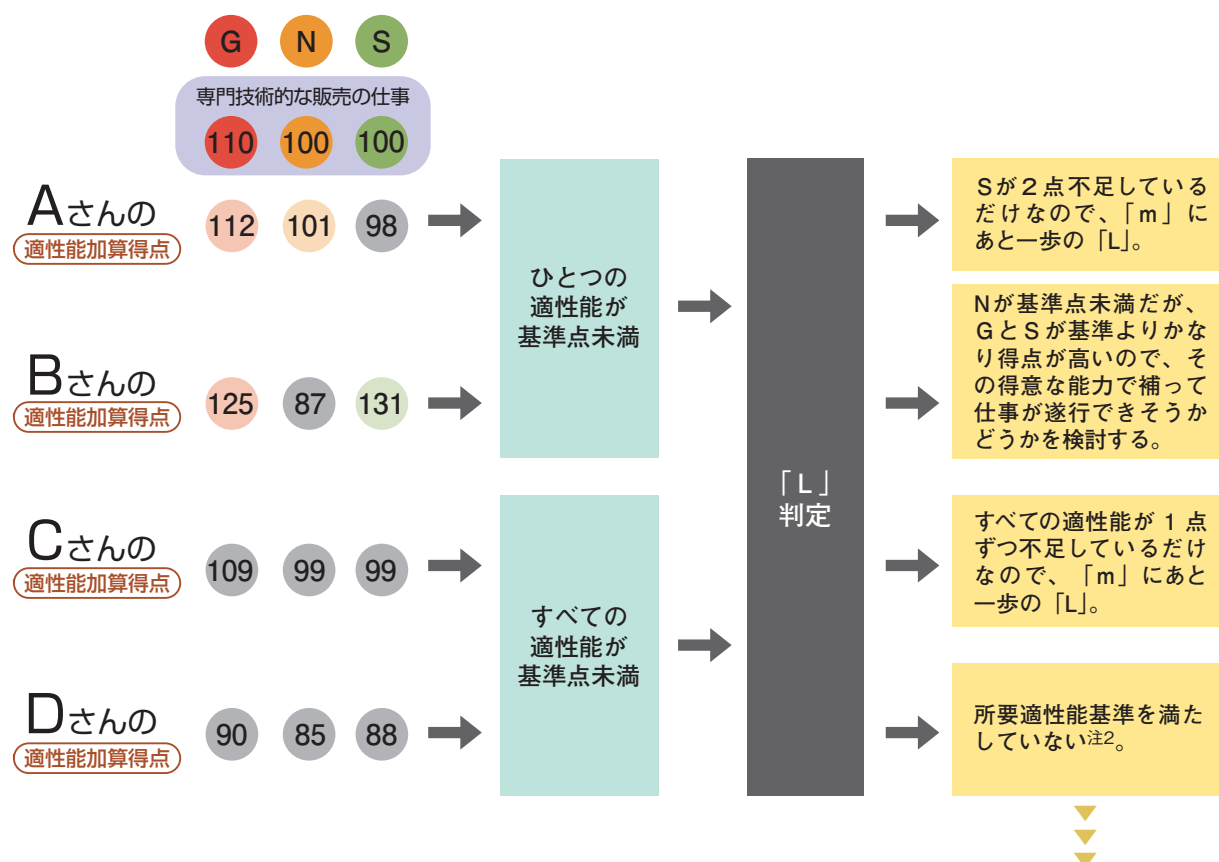
同じ「L」判定でも様々なケースがあります。希望の職業が「L」判定の場合や、すべての（または多くの）適性職業群で「L」判定の場合は、次例のような見方で適職を考慮していくとよいでしょう。

希望職種がある場合の例)

A、B、C、Dさんは、「セールスエンジニア」や「旅行営業員」の仕事を希望している。

いずれの仕事も「専門技術的な販売の仕事」に該当する。

「専門技術的な販売の仕事」の所要適性能基準は、G110 N100 S100 であり、Aさん～Dさんの適性能加算得点を照合すると、以下の図のようになる。



同じL判定でも、様々なケースがある

L判定ということだけで、希望の職業をあきらめる必要はない。

希望職業がある場合は、その具体的な仕事内容と適性能を合わせて検討します。また、GATBで測定していない側面についても検討します。希望する職業にどの程度の熱意があるのか、能力面の弱さをどうカバーするか、求人状況等、就職のチャンスが多いかどうか等を考慮することによって、より現実的な選択が可能になるでしょう。

注2：同一職種名でも数段階のレベルの高低があるものなので、その職業で仕事ができないという意味ではない。